

ベトナム子供基金通信

NO.13 2000年6月1日

ベトナム子供基金

〒113-8642

東京都文京区本駒込2-12-3

アジア文化会館内

TEL:03-3946-4121 (代)

FAX:03-3946-7599

ベトナム青葉奨学会

QUY HOC BONG LA XANH

c/o TRUNG NHAT NGU DONG DU

43D/46 Ho Van Hue, Phu Nhuan

Ho Chi Minh, Viet Nam

TEL:84-8-8477359 FAX:84-8-8477527

困難を忘れずに —奨学金授与式より—

青葉奨学会の2000年度第1期奨学金授与式が1月23日、ホーチミン市1区の友好会館で行われ、市内の全奨学生512名に手渡されました。今年度は全国各地の子供たち1000名以上に奨学金が支給されます。奨学金支給地域は郊外の各郡や僻地の村々、全国の各省へ広がりました。

開催にあたり青葉奨学会代表のグエン・ドク・ホウエ氏は概略次のようにあいさつを述べました。

青葉奨学会が設立されてもう8年が経ちました。当初の「兄弟奨学会」から換算しますと当奨学会は28歳になります。この2000年度、私どもは1000名を越える子供たちに奨学金を支給します。

奨学金支給やその他の活動は、全国各地に広がりました。北部はハノイ、ナムディン、中部はフエ、クアンナム、ダナン、クアンガイ、南部はロンアン、ティエンヤーン、ベンチャー、カントー、カマウです。

私どもが今日のように発展できたのは当奨学会の趣旨や活動内容を正当と認め信頼してくださった皆様のおかげです。この場をお借りして、奨学金を援助してくださった里親の皆様、貴重な手助けをいただいた市内奨学会・各機関の皆様に改めて心よりお礼申し上げます。

奨学金を受けている皆さん、この2000

年度、数回に分けて支給される奨学金は私の友人たちから広がった方々からの贈り物です。この方々は、ベトナムの国・ベトナムの民族を愛してくださっています。将来ベトナムの国民が衣食住に満ち足りて幸せに暮らし、ベトナムの国が世界の国々に負けないよう発展することを信じてくださっています。そして、ベトナムの若い世代、とりわけ青葉奨学生として選ばれた優秀な学生たちに、この信頼をおいてくださっています。

私たちを産んでくれたお父さんお母さんは、苦勞して私たちを育て、教え諭し養ってくれました。お父さんお母さんは私たちを一番愛してくれている人です。ですから皆さんもお父さんお母さんを愛し、二人が喜ぶように勉強し、きちんと生活しなければなりません。そして、皆さんがお爺さんお婆さんになっても、両

親の恩を忘れず、一生両親を敬愛して生きてゆかねばなりません。将来のためにいまはしっかり勉強し、もっとがんばってたくさん知識を身につけ、自分の可能性を磨きましょう。

皆さんの周りには、まだ生活に苦勞し衣食住に満ち足りていない人たちがたくさんいます。中部の学生たちは昨年台風で家をなくし、本やノートもなければ机や椅子もありません。皆さんの同胞はまだまだ苦勞しているのです。

また、常に自分の家族のことを忘れないでください。この社会、自分の国のことを忘れないでください。そして、すば

らしい国を造り、世界の国々に追いつき幸せに暮らすために自分の力を出し切りましょう。皆さんは両親に育ててもらい先生方に学び、社会に育てられ、国に養ってもらい、里親の方々に助けてもらっています。皆さんはこの方々のことを決して忘れないで下さい。そして皆さんの力を社会に集約することで恩返しをしましょう。

最後になりましたが、ベトナムの子供たちにくださった里親の方々の貴重なお心に、そして私どもの活動を励まし後押しして下さった皆様方に、もう一度心より感謝申し上げます。

元青葉奨学生のこぼ 技術大学情報工業科講師 ホー・バン・クアン

以前皆さんと同じように奨学金をいただいていた者として、ここに招待していただき大変光榮に存じます。まず、校長先生と青葉奨学会の皆様、そして里親の皆様にご心よりお礼申し上げます。

皆様は、まだ学校へ通っていた私に何年もの間、勉強する機会を与え、心を尽くして奨学金を援助して下さった上に、あとに続く若い世代にも引き続き支援してくださっています。

実際、いまになって自分の受け取っていた奨学金がどれほど貴重なものだったか感じる事ができました。私はようやく自分の成長の過程や自分が為し得た学習結果において、この奨学金の意味を理解したのです。

学生の皆さん、自信をもって自分を磨けばきっと夢を勝ち取ることができます。しかし、大きな成功を手にしようと思えば“鉄”のような精神で切磋琢磨しなければなりません。固い意志と忍耐力をもって聡明な知能と思考力・想像力を作り



上げていってください。そうすれば困難や障害を乗り越えられるでしょう。

本日申し上げたことは、私が学生だったころから知っていたわけではありません。学生時代の苦勞を乗り越えたあとで自分が学んだことをまとめただけです。だからこそ、皆さんが学習面と生活面でよりよい成果をあげることを願い、自分の経験をお話いたしました。

最後に、青葉奨学会の皆様、里親の皆様、学生の皆さんのご健康とご成功をお祈り申し上げます。そして、学生の皆さんが、この先私たちの社会と国の発展に貢献することを願っております。

「タオダン支援」から「緊急支援」に

1997年9月にそれまで支援していたイギリスの Save the Children からの支援が中止され、活動存続の危機にあったタオダンへのご支援を皆さまに呼びかけました。その後、1999年末までの皆様からのご支援は総額413万1352円に達し、その中から1998年と1999年の2年間各100万円を支援しました。

彼らの地道な活動に Save the Children も支援を再開し、ベトナム内外から多くの支援が集まっています。私たち子供基金の支援がきっかけになって、昨年、NHK「新アジア紀行」で取り上げられたこともあり、日本からも多くの支援を受けることもできました。現在は活動を維持拡大するための預金もできるようになりました。そして、より専門的な活動をするため、今年2月には専従スタッフの内3人がフィリピンで15日間の研修を受けることもできました。

そのため、ベトナム子供基金はタオダンの「活動維持のための緊急支援」という当初の目的を達成したと考え、今年度はひとまず支援を中止することにいたしました。そして、より緊急に支援を必要とする他の施設の子供たちを支援するために、お送りいただいた基金を使うことをご了承いただきたく存じます。

2000年度はまず、ホーチミン市7区にある孤児院「ロンホア」にお米代を支援することになりました。

この孤児院は、ロンホア寺（1902年建立）のお坊さんたちにより1995年に始められました。現在5歳～16歳の孤児の男子110人が生活し、教育を受けています。



ロンホア寺から小学校に通う子どもたち

お寺の信者たちのお布施や一般の寄付によって運営されていますが、今年は昨年秋に発生した中部の大洪水の影響で寄付が減り、子供たちの食べる“米”が不足している状態です。

米は1日60kg 必要だということです。米は普通1kg = 4000ドン（約31円）ほどですが、安く提供してくれるところがあり、1kg = 2800ドン（約22円）で買っています。1か月分は約4万円になります。3か月分の12万円を青葉奨学会とグエン・ドク・ホウエさんを通じて、2000年3月10日に支援いたしました。

なお、これまで「ベトナム子供基金 タオダン支援」として募金しておりましたが、今後は支援対象をもっと広げるという意味で「ベトナム子供基金 緊急支援」に名称を変更し、緊急に支援を必要としているベトナムの子供たちへの支援に使わせていただきたいと思います。今後ともご協力よろしくお願い申し上げます。

里子から里親への手紙

KO-034

サイゴン、2000年4月2日

モリモト タカコ様！

勉強が忙しかったので、長い間お手紙を書きませんでした。本当にごめんなさい。きょう、青葉奨学会の事務所へ行くのでこの手紙を書き、青葉奨学会の皆様にもリモト様に届けてくださるようお願いいたします。

まず、モリモト様のご家族、とりわけモリモト様のご健康をおたずねさせていただきます。わたしは相変わらず元気で、どの科目も一生懸命勉強しています。先月、わたしは「優」を取ることができましたが、化学の点数はまだ低かったです。わたしは期末試験ではこの科目ももっといい点数をとれるように、もっとがんばります。

この6月、わたしは卒業試験を受けます。これは中学校最後の学年のわたしたちにとって、とても重要な試験です。わたしはこの試験を6科目受けなければなりません。学校の先生方が「今回の試験はとても難しく、優秀な高校に入れる学生はとても少ないだろう」とおっしゃるのを聞きました。わたしはこの試験に立ち向かわなければならぬのがとても怖いですが、でも、だからといって落ち込むのではなく、がんばってこれらの試験をすべて乗り越えます。

わたしの住んでいる町は、今とても暑く乾燥していますが、突然雨が降り出したりします。日本では今は何の季節なのですか、モリモト様？

学校での勉強はとても楽しいです。わたしたちは毎日5コマ勉強します。月曜日は特別に授業の前にクラス活動の時間があります。特にこの日、女子学生たちはベトナムの伝統の服であるアオザイを着なければなりません。これを着るととてもかわいいのですが、まだあまり慣れていないのでとても苦しく感じます。

午後は、学校は強制はしませんが、わたしは月曜日と水曜日に数学の補習を受けています。家から補習の先生の家までとても遠く、わたしは友達と一緒に通っています。遠いですが、補習を受けはじめてから、数学はかなり進歩しました。練習問題もいつもいい点を取ることができます。

わたしには3人の親友がいます。いつもわたしたちは学校の休み時間におしゃべりをします。そして時々遊びに行ったりもします。

また、家では暇なときや、午後や夕方、掃除や洗濯など家の手伝いをしたりします。母は、物売りから帰ってくるととても疲れているので、わたしはこのような仕事をしたりするのです。時々料理を作ったり、物売りに出かけて母を助けたりもしています。夜、もし宿題がなければ近所にいる友達のところ遊びに行きます。

わたしが一番好きなのは日曜日です。学校へ行くために早起きしなくてもいいし、この日は母にいつもよりゆっくりさせてもらえるからです。

モリモト様にお話ししたいことがまだたくさんありますが、ここで終わらせていただきます。また次のお手紙でお会いしましょう。また近いうちにお手紙を書きますね。そしてわたしの生活についてもっとお聞かせします。最後に、モリモト様とご家族のご幸運とご健康を謹んでお祈りいたします。

モリモト様の子ども：Vu Thanh Quynh
(ブー・ティン・クィン)



KO-137

ホーチミン市、2000年1月20日

ミナト キヨエ様

ミナト様からお手紙をいただいて、わたしは本当に感動しました。今年、わたしは12歳で、6年生(中学1年生)、専門クラス入学に選ばれました。わたしは英語を専門に勉強していて、今のところなんとかやっています。

今はまだ無理ですが、この先ミナト様がいらしたときに直接お話ができるように、がんばって日本語も勉強するつもりです。わたしが住んでいるところはタンソンニャット空港の近くなので、とても人が多くにぎやかです。わたしは

近いうちにミナト様がこのすばらしいベトナムを訪れてくださり、慈悲深くもてなし好きのベトナムの人たちにお会いくださることを願っています。

勉強時間以外、母がわたしを養うために時間と健康を保てるよう、わたしは家族の細々とした仕事をして母を助けます。わたしは、ミナト様と母の期待を裏切らないことをお約束します。

今日から、どうぞわたしがミナト様をお母さん——わたしをたくさん励ましてくださり、助けてくださった、わたしのお母さん——とお呼びすることをお許しください。わたしは心の中にいつでもミナト様のお姿を刻んでいます。ミナト様のご健康を謹んでお祈りいたします。

ミナト様の子ども：Ho Khanh Nhac
(ホー・カイン・ニャク)



Kính tặng bác bác tranh cháu vẽ.

Tuy không đẹp, mong bác đừng chê

私に描いた絵をミナト様に送ります。
絵はいいお礼ねんが、ミナト様にはお礼ねんが、
を願っています。

始めに

*"Ôi! ăm ái là thời gian cấp sách,
Ôi! ouì tuối là lúc hầy còn thơ"*

学生時代、いくつもの希望と夢をもち全てが美しく見える若い時代、数え切れない喜びを楽しむ時代…。でも、この中にも生活が苦しく、一切れの食べ物や着る物をいつも心配している子供たちもいる。もし黄金のお心——みんなの恩人様——の援助がなければ、学校へ通う楽しさは手に届かないような子供たち。

里親様の中には体に障害をもった方やもう退職なさった方もいらっしゃるのを知って私たちは感動した。里親の皆様は決して物質的に裕福なのではなく、愛情にあふれているのである。だからご自分の身を削って青葉奨学会に手を差し伸べて下さった。里親の皆様はみんなが明るい夢へと旅立ち、その夢が実現するのを助けて下さっているのだ。

青葉奨学会編集部

青葉奨学会情報

- 青葉奨学会はドンズー学校の仲間たちの援助によって組織された団体です。青葉奨学会は、自らの奨学活動に於いて数々の実績を残してきました。主な活動資金源は、温かいお心を持った日本の皆様と国を愛する越僑の皆様からです。現在日本には東京、北陸、沖縄に三つの協力団体があり、その外には越僑の皆様やベトナムで働いていらっしゃる日本人の皆様からも奨学金をいただいています。特に二人の旧青葉奨学生（Lê Lương Giang と Hồ Văn Quân）からの奨学金は、来年度も継続されるでしょう。彼らは、共に困難な日々を暮らした青葉ファミリーを忘れず、自ら里親になってくれたのです。
 - '99年8月22日をもって、青葉奨学会は来年度奨学金受給申請書の配布を終え、9月6日から9月30日まで書類を受け付けます。
- 奨学金数が大幅には増えないため、新しい学生たちに2000年度奨学金受給のチャンスを与えるために青葉奨学会では、やむを得ず12年生（高校3年生）を卒業した学生たちへの奨学金支給を制限し、その分を地方の田舎に住む学生やより生活の困難な学生に支給する予定

です。特例として、優秀な成績で大学に合格した学生、社会活動に熱心な学生、青葉奨学会の活動に積極的に参加している学生は引き続き奨学金支給審査の対象になります

GOOD NEWS

- 今年度、8人の青葉奨学生が大学や高等大学校（3年制）を卒業しました。青葉ファミリーは、また新たに社会に有益な国民を送り出したことになります。皆さんが少しでも早く安定した仕事を見つけ、青葉ファミリーを覚えていてくれることを願っています
- また、何人かの青葉奨学生はLương Thế Vinh賞や Lê Quý Đôn賞を獲りました。この喜びをみんなで分け合いましょう。私達は、皆さんからの良いニュースを聞けることを待ち望んでいます。賞を獲ったらぜひ青葉奨学会に知らせて下さい。
- 1999年度も、青葉奨学会は引き続き学生を目的に日本へ学生を派遣します。今回はホーチミン市内Minh Đức中学校8年生（中学3年）Bùi Ngọc Thanh Thảoです。彼女の田舎はCần Giỏi郡の奥深くの困難にあふれたDuyên Hảiで、彼女は単身でホーチミン市に上京してきましたが、がんばって勉強に励み数年間にわたり「非常に優秀な生徒」という成績をとり続けています。今年も日本航空様からの援助と沖縄の里親の皆様からのご招待をいただくことができ、この勉強熱心な彼女を精神的に励まし後押しして下さいました。青葉奨学会は、里親の皆様との交流や沖縄琉球大学付属中学校での学生交流のためThảoさんを99年9月27日から10月4日まで日本へ派遣することを決定しました。彼女は現在沖縄にいます。この派遣が成功し、今後も青葉奨学生と里親の皆様・日本の学生の皆様との交流がより広がることを願っています。
- 99年8月15日、里親のイトウ様はご支援下さっているĐoàn Thanh Vũ (NK-089)にカントー市まで会いに行ってくださいました。また、9月2日にはイイダ様が二度目のご訪越、Nguyễn Thành Trực (KO-189)、Đặng Phạm Ý Nhi (KO-141)、Bùi Thị Thùy Dung (KO-135)の3人を訪ねて下さいました。
- 青葉新聞第4号で、青葉奨学会と Tuổi Trẻ 新聞社を通して北陸ベトナム友好協会様が Cũ Chi郡 Nhuận Đức村に中学校建設の寄付をして下さったことをお知らせしました。同時に私達青葉奨学会は、この学校の教室に黒板(1.2m x 2.4m)を20枚とサッカーボールやバドミントンなどのスポーツ用品を贈呈しまし

た。また、青葉奨学会の大学生たちは99年10月3日に記念植樹に参加し、この学校の学生たちと交流を深めました。99年10月18日に開校式が行われます。

人事異動ニュース

青葉奨学会は二人の新しいスタッフを迎え入れました。Huỳnh Minh Hạnhさんと Nguyễn Thị Bích Vânさんです。Hạnhさんは青葉奨学会の副代表として、Vânさんは事務局の総書記として働きます。99年11月から、Anh Đào Phước Longさんは別の仕事に就き、Trần Thị Hồng Liênさんが青葉奨学会の会計責任者となります。

ちょっと考えよう

子ども宛てに送られてきた里親の写真を見て私は感動せずにはいられなかった。車椅子に座った60歳ぐらいの一人の男性、この方がみんなの里親でもあるのだ。子ども宛ての手紙を翻訳して私はようやく尊敬すべきこの人の状況がいくらか理解できた。交通事故のため両足を失ってしまったがこの方はこの運命を諦めなかった。勉強を辞めず、仕事をし、現在この方は大学に通っている。そしてこの方は、困難にある子供たちが勉学の道で夢を手に入れられるよう援助する、という唯一の意志を持って青葉奨学会に参加して下さい。

このように、皆さんの里親は決して大金持の人たちではないのです。年配の方も多く、一人暮らしの方や体の不自由な方もいます。また、何か有益なことをしたい、生活の楽しいこと悲しいことを分け合う素直な子ども・孫を持てれば、と願っている方々もいます。みんなの手紙を受け取って里親の方々はとても喜んで下さいます。みんなの手紙を読んで泣いて下さる方もいます。生活面で障害に遭っているみんなを励まし慰めるために急いでペンを取って下さいます。それなのに、一年に一度も里親様に手紙を書かない子供たちがいます！皆さん、援助を下さっている方々がみんなの成長を楽しみにしながらみんなの手紙を待っているのを知っていますか？

奨学金支給の様子を見守る父兄。

ホーチミン市内の子供たちは2ヶ月に一度の支給日にドンズー日本語学校まで奨学金を受け取りに来る。低学年の子供を連れて来た父兄は、支給の様子を教室の外で見ながら待っている。

青葉新聞編集者：

Cô Nguyễn Thị Bích Vân

Trần Thiện Ánh Nguyệt

Nguyễn Duy An.

奨学生の皆さん、里親の皆様、父兄の皆様からのご意見ご感想をお待ちしております。



Nhuan Duc 中学校校舎と黒板。



1999年ベトナム子供基金会計報告

(期間：1999年1月～12月)

(単位：円)

(単位：円)

収 入	青 葉 奨 学 会	基金	6,531,257
		利息	1,748
		収入計	6,533,005
		前年度繰越金	9,365,323
		計	15,898,328
入 オ ダ ン	タ	基金	1,168,538
		利息	293
		収入計	1,168,831
		前年度繰越金	1,954,214
		計	3,123,045
合計			19,021,373

支 出	青 葉 奨 学 会	奨学金	4,202,942
		経費	1,762,652
		支出計	5,965,594
		次年度繰越金	9,932,734
		計	15,898,328
出 オ ダ ン	タ	援助金	1,006,000
		経費	371,215
		支出計	1,377,215
		次年度繰越金	1,745,830
		計	3,123,045
合計			19,021,373

11,678,564

青葉奨学会基金収入の内訳

(単位：円)

	里親基金		一般基金		賛助金		合計	
	参加者数	金額	参加者数	金額	参加者数	金額	参加者数	金額
1月	13	288,667	3	36,000	4	50,333	20	375,000
2月	6	108,667	6	70,000	4	26,793	16	205,460
3月	10	188,667	2	22,000	5	118,333	17	329,000
4月	9	148,667	6	68,000	6	32,333	21	249,000
5月	6	128,667	2	24,000	2	6,857	10	159,524
6月	7	88,667	2	22,000	3	11,333	12	122,000
7月	77	1,649,267	19	226,000	14	70,333	110	1,945,600
8月	23	548,334	5	58,000	4	223,066	32	829,400
9月	14	288,334	2	24,000	3	15,066	19	327,400
10月	11	228,334	3	52,000	3	15,066	17	295,400
11月	28	668,334	4	60,000	4	22,435	36	750,769
12月	38	773,333	6	108,000	11	61,371	55	942,704
合計	242	5,107,938	60	770,000	63	653,319	365	6,531,257

タオダン基金収入の内訳

(単位：円)

	参加者数	金額
1月	7	137,681
2月	1	5,000
3月	11	218,857
4月	2	25,000
5月	3	23,000
6月	2	13,000
7月	5	56,000
8月	3	30,000
9月	3	43,000
10月	1	40,000
11月	2	520,000
12月	8	57,000
合計	48	1,168,538

経費の内訳

(単位：円)

科目		金額	
青葉奨学会	郵送費	147,210	
	印刷費	67,475	
	国際通信費	64,967	
	備品費	0	
	雑費	36,162	
	スタッフ活動費	ホーチン事務局	573,918
		東京事務局	872,920
計	1,762,652		
タオダン	郵送費	304,650	
	印刷費	54,715	
	雑費	11,850	
	計	371,215	
合計		2,133,867	

1999年青葉奨学会会計報告 (期間：1999年1月～12月)

(単位：us\$)

収入	前期繰越金	3,234.57	支出	奨学金	35,640.00
	基金収入	38,010.38		管理費	4,194.73
	収入計	41,244.95		支出計	39,834.73
				次期繰越金	1,410.22

奨学生：470名 (小学生102名、中学生191名、高校生162名、大学生5名)

会計報告補足

「青葉奨学会」の基金は、(1)皆様のご好意で運営しております「ベトナム子供基金」と同様の組織「北陸ベトナム友好協会」と「青葉奨学会沖縄委員会」からの里親基金、(2)上記各団体経由または「青葉奨学会」に直接寄せられる他の方々(現地ベトナムを含む)からのご好意による一般基金、(3)その他「青葉奨学会」の趣旨に賛同された方々(法人を含む)からの賛助金、から成り立っております。

また、その他に、例えば校舎建設など特定の目的のために拠出された基金(寄付金)などもあります。

以上の様な経緯で集められた基金は現

地「青葉奨学会」代表のホウエ氏をはじめ現地スタッフの裁量で運用されております。

したがって、会計報告中の「管理費」の中には本来の奨学金支給のための経費以外に「青葉奨学会」として行なった各種の事業の経費も応分の割合で含まれております。

例えば、1999年度の場合、次の経費を支出しております。

・9月 北陸ベトナム友好協会経由で(財)アイ・社会文化推進事業団寄贈のクチ県ニュアンドウック村の中学校の新築校舎に黒板(2m×4m)20枚、サッカーボールなど運動用具を寄贈。

18
15
x 2
540

・9月 三重県の
ロータリークラブ
寄贈のタイニン省
のスイザイ中学校
の新築校舎に黒板
10枚寄贈。



以上2件の新築
校舎の建築資金は
「青葉奨学会」経
由で実施された事
業です。

・10月 校舎周辺
に火災樹など186本を「青葉奨学会」の
大学生が植樹（写真）。

・12月 日本の新聞・TVなどでも報道
されたベトナム中部の大洪水の際には

「青葉奨学会」の奨学金を受けている小
学生が、支給されている奨学金で購入し
た自分たちのノートをより困窮している
被災地の小学生のために1730冊を拠出し
「青葉奨学会」も3885冊を拠出、あわせ
て5615冊を贈りました。

これらの事業は「青葉奨学会」の判断
で行なわれるため日本の支援団体には事
後報告となっておりますが、内容として
は本来の趣旨に合致していると考えてお
ります。今後も同様な事業が行なわれる
と思っておりますが、ご理解とご支援をお願
い致します。

また、内容が分かり次第「ベトナム子
供基金通信」でご報告いたします。

中部洪水被災者を支援 —青葉奨学会、小学生も協力—

1999年11月上旬、ベトナム中部は集中豪雨に見舞われ大洪水が発生、フエ市
ではフォン川が氾濫し、3～5メートルの浸水がありました。被害状況（日本国
外務省11月17日）は、中部6省1市で死者532名、被災者約106万名、損壊家屋約
9800戸、浸水家屋約47万戸という人的および物的に深刻なものでした。12月
には2回目の水害が起こり、被害はさらに拡大しました。

ベトナム中部では毎年、大雨や台風の被害を受けていますが、今回の大水害
は今世紀最大ともいわれています。

青葉奨学会はドンズー日本語学校と協力して洪水被災者に対し救援活動を行
いました。

中部洪水被災者救援結果報告

第1弾：1999年10月15日～11月5日

- ・ドンズー日本語学校の学生と教職員か
らの募金額：1050万ドンと1us\$
- ・トイチェ新聞に中部被災者への送金を
依頼。

第2弾：1999年11月6日～11月28日

- ・古着、ノート、ペンを集める（古着2
袋分、古い教科書66冊、ノート416冊、
ペン112本、薬）。

第3弾：1999年12月1日～12月20日

- ・今回はお金を集めた後、ノートを購入
し被災学生に贈呈（特別価格1冊1287
ドンで購入）。

結果

- ・青葉奨学会：3885冊（青葉奨学会管理
費の一部を使用）
- ・青葉奨学会の奨学生：1730冊（奨学生
たちが自主的にノートを購入し寄付）
- ・ドンズー日本語学校学生教職員：2611
冊

- ・ ドンズー日本語学校出身の在日留学生及び日本の友人：1万1748冊
 - ・ AOTS <(財)海外技術者研修協会>：3885冊
 - ・ ドンズー日本語学校は中部までの運送費として500万ドン支出。
 - ・ 第2弾、第3弾の両支援によるノートの総数：2万4275冊
 - 上記のノート、本、ペンはドンズー日本語学校の副校長、職員1名、学生2名
- が被災地に運び、洪水被害に遭った学生たちに直接手渡した。
- 出発日：1999年12月25日
 - 帰着日：1999年12月31日
 - 贈呈先は次のとおり
 - クアンガイ：ノート6000冊
 - クアンナム：ノート6275冊・教科書・古着・ペン・薬
 - ダ ナ ン：ノート6000冊
 - フ エ：ノート6000冊

ベトナムの交通

ベトナム子供基金
駐ホーチミン市スタッフ
脇平裕美

“エネルギーな街サイゴン” というようなタイトルの映像を皆さんももうご覧になったかもしれない。おびただしい数のホンダバイクと、その積載限度を確実に超えているであろう人と荷物。そしてみんなノーヘル。「どうして？」「暑いから。」…納得。そしてみんなミラー無し。「どうして？」「ジャマだから。」…確かに。

実際、朝夕の渋滞は筆舌に尽くし難い。ラッシュというものは何処の国でも大変なのだ。空いたスペースをねらって少しずつ進まなければ、目の前に見えている目的地までも10数分かかってしまう。ベトナム人の“譲らない・並ばない精神”はきっとこの交通量の中で育まれたのだろう、と排気ガスに息を止めながら一人でうなずく。(写真：安全運転をうながす看板を据えつけている様子。ホーチミン市)



そして日本が持ち込んだこの“すばらしい”乗り物のおかげで彼らは一切歩かない。まさにDOOR To DOORで移動できるからだ。この弊害を知ってか知らずか、

ベトナム人は夜明け直後のまだ涼しい朝5時ごろから公園や道で体操したりバドミントンをしたりする。もちろんそこまでバイクで行くのだが。

それにしても最近急激に信号が増えた。今まで信号のない交差点ではほとんどスピードを緩めずお互い上手に避け合って縫針のようにすり抜けていたのに。いちいち止まるのは本当に面倒くさい。だが例の渋滞時にはこれが威力を発揮する。なるほど、と信号の意味を再認識した。

このように交通量の多いサイゴンでは、コンタクト着用そしてサングラス故障中の私にとってほこりは大敵である。目にゴミが入るたびに路肩に自転車を

停めてひたすら泣く。すると道端のおいちゃん・おばちゃんが「どないしたん？大丈夫か？」（←私にはこう聞こえる）と心配そうに覗き込んでくれる。嗚呼、人情の街サイゴン。この街では、バイクで走行中でも見知らぬ人によく話し掛ける。「暑いなあ。」「ねえねえ、今何時？」に始まり、「ウィンカー付きっぱなしやで。」そして「そのチャリンコいくらしたん？どこで買ったん？」…。事故にならないのを祈るばかりだ。

サイゴンの街を走ると、色々な匂いを感じることができる。季節の果物の香り、雨上がりの樹の匂い、お寺からは線香、そしてもちろん排気ガスや汚染された川の臭いまで。どこから何が飛び出してくるか分からないテレビゲームのようなこの街を、これだけ余裕を持って走れるようになった自分にそろそろ乾杯してあげたい。

ベトナム子供基金会員募集

<p>里親基金 年額一口 20,000円</p>	<p>特定の「里子」に奨学金を支給する「里親」になっていただきます。 ベトナム青葉奨学会から子供の履歴表が届き、子供と手紙のやり取りができます。</p>	<p>会費納入は次のところにお問い合わせいたします。</p> <p><input type="checkbox"/> 口座名義はいずれも「ベトナム子供基金」</p> <p>郵便振替 00140-1-70399</p> <p>銀行振込 富士銀行駒込支店 普通預金 1495745</p>
<p>一般基金 年額一口 12,000円</p>	<p>子供たち全体の「里親」という関係を想定しています。子供基金通信によって、会の運営、子供たちの様子等をお伝えします。</p>	
<p>賛助基金</p>	<p>一般基金に準じます。金額、回数等、一切自由です。</p>	

「緊急支援」（3ページを参照）にご協力くださる方は下記にご送金ください。口座名義は「ベトナム子供基金・緊急支援」です。

郵便振替：00170-5-18054

銀行振込：富士銀行駒込支店 普通預金 1602525